

老年看護学実習／2学年

1. 実習目的

老年期の特徴をとらえ対象の健康レベルに応じた看護を実践できる基礎的能力を養う。

2. 実習目標

- 1) 老年期にある対象の身体的、精神的、社会的特徴を理解し、身体的、心理的、社会的に高齢者の全体像を捉えることができる。
- 2) 老年期にある対象の健康に影響を与える要因を理解し、健康の維持・増進、健康障害予防のための援助ができる。
- 3) 老年期にある対象の日常生活行動、健康状況を把握し、生活背景、生活習慣との関連を理解した上で、その人らしい生活を送るための援助をできる。
- 4) 老年期にある対象の継続看護の必要性を理解し、対象だけでなく家族に対する援助ができる。
- 5) 老年期にある対象を取り巻く保健・医療・福祉の状況を知り、チームの一員としての役割を理解する。
- 6) 人格を尊重した倫理的態度を身につけ、老年期にある対象への看護を実践できる。

3. 実習内容

一般目標	行動目標	実習内容
1. 老年期の特徴をふまえて対象を理解する。 (実習目標 1、2、3)	1) 老年期の特徴をふまえて対象の発達課題について述べるができる。	(1)高齢者のライフサイクルにおける身体的、精神的、社会的特徴の理解（加齢・老化に伴う変化） <ul style="list-style-type: none"> ・身体的特徴 恒常性機能、体力、運動、臓器、感覚、知覚の変化、廃用症候群 ・精神的特徴 心理・精神的機能、記憶の変化 ・社会的特徴 家庭内、職業的役割の変化、経済的变化 余暇時間の増大 ・認知症の特徴 見当識障害、情緒障害、人格障害 ※疾病の経過別実習内容については、成人看護学実習（周手術期・慢性期・終末期）を参考にする。
2. 高齢者の特徴や健康レベルの状況を把握し、看護過程を展開する。 (実習目標 1、2、3、4)	1) 対象の病態生理・症状・検査・治療・処置について述べるができる。 2) 対象の基本的ニーズの充足状況について述べるができる。	(1)病態生理の把握 (2)症状・状態の観察 (3)治療方針・検査・治療内容 (1)基本的ニーズの観察 (2)基本的ニーズの充足・未充足

一般目標	行動目標	実習内容
<p>2. 高齢者の特徴や健康レベルの状況を把握し、看護過程を展開する。 (実習目標 1、2、3、4)</p>	<p>3) 対象の全体像を把握し、説明することができる。</p> <p>4) 対象や家族に合わせて健康回復や自立に向けた援助を実施できる。</p>	<p>(1)人間像・生活像・病態像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の自立状況 ・食事、排泄、清潔、活動、睡眠、衣生活等 ・生活習慣、生活環境、生活歴 ・家族背景、家族歴、時代背景 <p>(1)症状や状態、健康段階に応じた援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康の回復、健康の増進 ・苦痛の緩和、疾病の予防 <p>(2)安全・安楽を考慮した援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全安楽を阻害する因子 ・危険因子の予測、予防、軽減 <p>(3)残存機能を生かした援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害の程度 ・廃用性萎縮の予防 ・ADLの拡大 <p>(4)自立や自発的な行動への援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活意欲の向上（身体面、精神面） <p>(5)入院に伴う問題に対する援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境への適応 ・二次的障害・合併症の予防
<p>3. 継続看護における看護者の役割について理解する。 (実習目標 4、5)</p>	<p>1) 対象に必要な継続看護の必要性を述べることができる。</p> <p>2) 対象の継続看護に関わるメンバーと看護者の役割、社会資源について述べることができる。</p>	<p>(1)継続看護の意義・目的</p> <p>(2)ライフサイクルに沿った一貫したヘルスケア</p> <p>(3)健康のあらゆるレベルに対応したヘルスケア</p> <p>(1)看護者の役割</p> <p>(2)家族への情報提供</p> <p>(3)社会資源の活用方法</p> <p>(4)退院指導や転院の手続き</p>
<p>4. 対象の人生観・価値観を尊重し倫理的態度を身につける。 (実習目標 6)</p>	<p>1) 対象とのコミュニケーションからどのような人生を歩んできたのか、何を大切に生きてこられた方なのかを記述できる。</p> <p>2) 対象を尊重した態度、言葉遣いができる</p>	<p>(1)対象の人格を考慮した援助</p> <p>(2)家族を含めた対象の理解度に応じた情報提供、指導、説明</p> <p>(1)対象を尊重した関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共感的態度、受容的態度 ・相手を尊重した言葉遣い

4. 実習時間（単位）

総時間 90時間 （2単位）

- 1) 臨地実習 66時間
- 2) 学内実習 24時間 （0.53単位）

目的：臨地での学びを振り返り、理解を深める。

内容：①実習グループごとに担当教員と共にミーティングを行い、援助の方向性について話し合い翌日の援助につなげる。

②受け持ち患者の看護を実践するために不足している学習を深め、技術練習の時間とする。

③教員の指導のもと看護計画の立案や修正、実習の記録を整理する。

（看護計画は3日目の13：45～16：45に立案する）

実習期間および時間

	9:00～9:45	9:45～10:30	10:30～11:15	11:15～12:00	12:00～12:45	13:45～14:30	14:30～15:15	15:15～16:00	16:00～16:45
1日目	臨地実習					臨地実習		学内実習	
2日目	臨地実習					臨地実習		学内実習	
3日目	臨地実習					学内実習			
4日目	臨地実習					臨地実習		学内実習	
5日目	臨地実習					臨地実習		学内実習	
6日目	臨地実習					臨地実習		学内実習	
7日目	臨地実習					臨地実習		学内実習	
8日目	臨地実習					学内実習			
9日目	臨地実習					臨地実習		学内実習	
10日目	臨地実習					臨地実習		学内実習	

5. 実習方法

患者一人を受け持ち、看護過程を展開する。

6. 実習記録

- 1) 実習の記録を参考に作成する。
- 2) 実習記録は実習終了後、記録内容を整理し、実習終了の翌日病棟に提出する。

7. 実習評価

老年看護学実習評価表を用いて評価する。

老年看護学実習評価表

項目	評価対象	評価基準			評価基準 3点	評価基準 2~0点	点数
		4点	5点	6点			
1	実習レポート全体	身体の変化について情報を収集し、記載している 口皮膚の状態、変調、病変、ドラッグ(スキンケアなど) 口呼吸(排気、吸気) 口嚥下(嚥下、嚥下の可動域、姿勢保持、歩行能力) 口味覚、口嗅覚、口防カ(嚥下、嚥下の可動域、姿勢保持、歩行能力) 口記憶機能 口認知機能	身体的なエンペーンからではないが、老年期にある対象を取り巻く健康、医療、福祉の状況を、チームの一員として把握し、チームの一員としての役割を担っている	身体の変化について情報、聴覚、触覚、筋力、味覚の情報のうち不十分な項目が1~2項目ある。または、上記のすべての項目について情報を収集しているが、一部の項目の内容に不十分ところがある	身体の変化について情報、聴覚、触覚、筋力、味覚の情報のうち不十分な項目が3~4項目ある。または、上記のすべての項目について情報を収集しているが、一部の項目の内容に不十分ところがある	0	
2	1	老年期にある対象を取り巻く健康、医療、福祉の状況を、チームの一員として把握し、チームの一員としての役割を担っている	老年期にある対象を取り巻く健康、医療、福祉の状況を、チームの一員として把握し、チームの一員としての役割を担っている	老年期にある対象を取り巻く健康、医療、福祉の状況を、チームの一員として把握し、チームの一員としての役割を担っている	老年期にある対象を取り巻く健康、医療、福祉の状況を、チームの一員として把握し、チームの一員としての役割を担っている	0	
3	1	受け持つまでの経過を全て記載している	受け持つまでの経過を記載しているが、不十分な項目が1項目ある	受け持つまでの経過を記載しているが、不十分な項目が2項目ある	受け持つまでの経過を受け取っても3項目以上記載していない	0	
4	1	入籍前の日常生活について、左記のすべての項目について情報を収集しているが、不十分な項目が1~2項目ある	入籍前の日常生活について、左記のすべての項目について情報を収集しているが、不十分な項目が4~5項目ある	入籍前の日常生活について、左記のすべての項目について情報を収集しているが、不十分な項目が6項目以上ある	入籍前の日常生活について、左記のすべての項目について情報を収集しているが、不十分な項目が8項目以上ある	1	
5	1	ヘンダーソンの看護理論に基づき14項目の2~3項目の枠組みを用いて情報を整理している	ヘンダーソンの看護理論に基づき14項目の2~3項目の枠組みを用いて情報を整理しているが、不十分な項目が1~2項目ある	ヘンダーソンの看護理論に基づき14項目の2~3項目の枠組みを用いて情報を整理しているが、不十分な項目が3~4項目ある	ヘンダーソンの看護理論に基づき14項目の2~3項目の枠組みを用いて情報を整理しているが、不十分な項目が5項目以上ある	2	
6	1	収集した2~3項目の情報を、赤い度合いをアセスメントし、必要な援助を考へることができている	収集した2~3項目の情報を、赤い度合いをアセスメントし、必要な援助を考へることができているが、不十分な項目が1~2項目ある	収集した2~3項目の情報を、赤い度合いをアセスメントし、必要な援助を考へることができているが、不十分な項目が3~4項目ある	収集した2~3項目の情報を、赤い度合いをアセスメントし、必要な援助を考へることができているが、不十分な項目が5項目以上ある	2	
7	1	対象の病態生理、症状、検査、治療、処置について図や表を用いてわかりやすく整理している	対象の病態生理、症状、検査、治療、処置について図や表を用いてわかりやすく整理しているが、不十分な項目が1~2項目ある	対象の病態生理、症状、検査、治療、処置について図や表を用いてわかりやすく整理しているが、不十分な項目が3~4項目ある	対象の病態生理、症状、検査、治療、処置について図や表を用いてわかりやすく整理しているが、不十分な項目が5項目以上ある	2	
8	1	図や表を用いて必要な情報の記載をしておき、必要に応じて図や表を用いてわかりやすく整理している	図や表を用いて必要な情報の記載をしておき、必要に応じて図や表を用いてわかりやすく整理しているが、不十分な項目が1~2項目ある	図や表を用いて必要な情報の記載をしておき、必要に応じて図や表を用いてわかりやすく整理しているが、不十分な項目が3~4項目ある	図や表を用いて必要な情報の記載をしておき、必要に応じて図や表を用いてわかりやすく整理しているが、不十分な項目が5項目以上ある	2	
9	1	健康問題の優先順位を決定している	健康問題の優先順位を決定しているが、不十分な項目が1~2項目ある	健康問題の優先順位を決定しているが、不十分な項目が3~4項目ある	健康問題の優先順位を決定しているが、不十分な項目が5項目以上ある	0	
10	1	対象と家族の思いや価値観、人生観が反映され、対象と家族の状況に適した具体的な看護計画を立てる	対象と家族の思いや価値観、人生観が反映され、対象と家族の状況に適した具体的な看護計画を立てるが、不十分な項目が1~2項目ある	対象と家族の思いや価値観、人生観が反映され、対象と家族の状況に適した具体的な看護計画を立てるが、不十分な項目が3~4項目ある	対象と家族の思いや価値観、人生観が反映され、対象と家族の状況に適した具体的な看護計画を立てるが、不十分な項目が5項目以上ある	2	
11	1	解決策を原案を考へ、具体的な援助内容をSWIHCで記載している	解決策を原案を考へ、具体的な援助内容をSWIHCで記載しているが、不十分な項目が1~2項目ある	解決策を原案を考へ、具体的な援助内容をSWIHCで記載しているが、不十分な項目が3~4項目ある	解決策を原案を考へ、具体的な援助内容をSWIHCで記載しているが、不十分な項目が5項目以上ある	1	
12	1	1日の行動目標は看護計画に基づき、短期間で達成される患者の状態(1日)で達成可能な目標を設定し、具体的な行動目標を記載している	1日の行動目標は看護計画に基づき、短期間で達成される患者の状態(1日)で達成可能な目標を設定し、具体的な行動目標を記載しているが、不十分な項目が1~2項目ある	1日の行動目標は看護計画に基づき、短期間で達成される患者の状態(1日)で達成可能な目標を設定し、具体的な行動目標を記載しているが、不十分な項目が3~4項目ある	1日の行動目標は看護計画に基づき、短期間で達成される患者の状態(1日)で達成可能な目標を設定し、具体的な行動目標を記載しているが、不十分な項目が5項目以上ある	1	
13	1	看護実践時、患者の話をよく聞き理解すると共に、自分の考えや思いを相手に分かってもらうよう努める	看護実践時、患者の話をよく聞き理解すると共に、自分の考えや思いを相手に分かってもらうよう努めるが、不十分な項目が1~2項目ある	看護実践時、患者の話をよく聞き理解すると共に、自分の考えや思いを相手に分かってもらうよう努めるが、不十分な項目が3~4項目ある	看護実践時、患者の話をよく聞き理解すると共に、自分の考えや思いを相手に分かってもらうよう努めるが、不十分な項目が5項目以上ある	0	
14	1	助言を受けて、患者のセルフケア能力をいかに、危険を予測して安全に看護実践している	助言を受けて、患者のセルフケア能力をいかに、危険を予測して安全に看護実践しているが、不十分な項目が1~2項目ある	助言を受けて、患者のセルフケア能力をいかに、危険を予測して安全に看護実践しているが、不十分な項目が3~4項目ある	助言を受けて、患者のセルフケア能力をいかに、危険を予測して安全に看護実践しているが、不十分な項目が5項目以上ある	1	
15	1	計画内容に家族に要する内容を対し、事前に看護実践している	計画内容に家族に要する内容を対し、事前に看護実践しているが、不十分な項目が1~2項目ある	計画内容に家族に要する内容を対し、事前に看護実践しているが、不十分な項目が3~4項目ある	計画内容に家族に要する内容を対し、事前に看護実践しているが、不十分な項目が5項目以上ある	1	
16	1	計画内容に家族に要する内容を対し、事前に看護実践している	計画内容に家族に要する内容を対し、事前に看護実践しているが、不十分な項目が1~2項目ある	計画内容に家族に要する内容を対し、事前に看護実践しているが、不十分な項目が3~4項目ある	計画内容に家族に要する内容を対し、事前に看護実践しているが、不十分な項目が5項目以上ある	1	
17	1	看護と教育に報告、相談している	看護と教育に報告、相談しているが、不十分な項目が1項目ある	看護と教育に報告、相談しているが、不十分な項目が2項目ある	看護と教育に報告、相談しているが、不十分な項目が3項目以上ある	1	
18	1	自分の課題解決に向け学習を進めている	自分の課題解決に向け学習を進めているが、不十分な項目が1項目ある	自分の課題解決に向け学習を進めているが、不十分な項目が2項目ある	自分の課題解決に向け学習を進めているが、不十分な項目が3項目以上ある	0	
19	1	より良い看護実践をするために実習グループ内で、自らの経験、困り事、よききた事などを話すことができ、実践につながっている	より良い看護実践をするために実習グループ内で、自らの経験、困り事、よききた事などを話すことができ、実践につながっているが、不十分な項目が1項目ある	より良い看護実践をするために実習グループ内で、自らの経験、困り事、よききた事などを話すことができ、実践につながっているが、不十分な項目が2項目ある	より良い看護実践をするために実習グループ内で、自らの経験、困り事、よききた事などを話すことができ、実践につながっているが、不十分な項目が3項目以上ある	0	
20	1	自らの体調を整えて実習に臨み、全日出席している	自らの体調を整えて実習に臨み、全日出席しているが、不十分な項目が1項目ある	自らの体調を整えて実習に臨み、全日出席しているが、不十分な項目が2項目ある	自らの体調を整えて実習に臨み、全日出席しているが、不十分な項目が3項目以上ある	0	
合計							100点